

# エコニュース さって



第 8 5 号  
令和 3 年 1 月 8 日  
さって市民環境ネット  
TEL 48-0331

## 野鳥観察会に参加して

報告： 福田

令和 2 年 2 月 11 日（火）9 時、参加者総勢 25 名。北公民館を出て行幸湖、中川の干潟、高須賀池周辺を、埼玉県生態系保存協会の青柳 進さんに指導をうけながら野鳥観察会を行った。



あちら こちらに 鳥が、 中川土手にて

先ず桜土手の羊小屋脇のため池には、コガモやカワセミが。中川土手を外野橋へと進むと、水門脇にセグロセキレイ、イカルチドリ、カワセミが。

行幸湖には、カワウ、アオサギ、ツグミ、カンムリカイツブリ、オオバン等が観察出来た。中川の土手の足元には、紅紫の「ヒメオドリコソウ」や白の「ペンペン草」が咲き始め、紅紫の「ホトケノザ」が咲き誇っていた。



野鳥注目、 高須賀池にて

更に、行幸橋を渡り高須賀池へ向かうと「赤梅」「ゆず」「椿」や「蠟梅」が咲き、春が近いと感じられた。自然堤防に沿って進むと、タヒバリやシメヤトビが観察できた。高須賀池にも、多数のマガモ、コガモ、オオバン等が、中川土手にもカワセミを見ることが出来た。



高須賀池にて全員集合

2 時間程散策した後北公民館に戻り、お茶を飲みながら、観察した野鳥の種類を確認しあった。その結果、総種類数は 34 種であった。

青柳講師より、野鳥観察の時期は、空気が乾燥し、草木が鬱蒼と茂っていない冬が小鳥を

観察し易いそうだ。渡り鳥は夜も飛べ、鳥目ではない。夜が見えない鳥目なのはニワトリだけとか。どこから来た渡り鳥は何処へ帰るか等。冬鳥、旅鳥、留鳥、漂鳥等の他、楽しい話も聞くことも出来た。講師の方が双眼鏡で探し、倍率の大きな望遠鏡で見える状態にしてくれるので、手ぶらで参加しても大丈夫です。野鳥の美しさに感動すると思いますので、次回は親子でも大勢参加してください。

## エコライフDAY2020の取組結果

報告 : 幸手市環境課

### ▼「エコライフDAY」とは

チェックシートを用いて、省エネ・省資源の生活を1日体験する取組です。

幸手市では、平成17年度より毎年実施し、市内の学校関係(各小中学校、幸手桜高校、日本保健医療大学の児童・生徒・学生・教職員とその家族)、事業所、市役所・各種団体職員、その他市民の皆さまに広く御参加いただいております。

### ▼新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う変則開催について

本年度、学校関係については、新型コロナウイルス感染症による影響を考慮し、チェックシートの配布のみを行い、回収は行わないこととしたため、集計結果には含まれていません。



### ▼開催期間

令和2年7月1日(水)～8日(水)

※学校関係は、令和2年7月1日(水)～9月30日(水)の間で、チェックシートの配布のみ。

### ▼参加者数・二酸化炭素削減量

今回の参加者数は648人、二酸化炭素削減量は約556,069gとなりました。学校関係を除く昨年度との比較では、参加者数は30人、1人当たりの二酸化炭素削減量は約31gの増加となりました。

### ▼項目ごとの取組状況

#### 実施率上位3項目

順位	項目内容	実施率
1	市町村のごみ出しルールにしたがって分けた。	94.0%
2	部屋を出るときは、明かりを消した。	92.3%
3	ご飯やおかずを、残さず食べた。	88.4%

#### 実施率下位3項目

順位	項目内容	実施率
1	出かけるときは自動車に乗らずに、徒歩・自転車・バス・電車を利用した。	20.5%

2	テレビなど家電製品を使わないときは、主電源を切ったりコンセントからプラグを抜いた。	27.3%
3	お風呂の残り湯を洗濯に使った。	28.5%

▼地球温暖化防止には、一人ひとりの認識及び行動が重要です。

地球の未来のため、少しでも温室効果ガス（二酸化炭素等）の排出を抑える生活を心がけるようお願いします。



▼みんなでエコライフを

家庭では、さまざまなエネルギーが消費されます。その中でも二酸化炭素が多く排出されるのは電気です。経済産業省では、エアコンやテレビなど省エネ家電の選び方や効果的な使い方を紹介しています。色々な情報を参考に、今後も家庭におけるエコライフスタイルの推進に御協力をお願いします。

※「エコライフDAY」の取組結果は、市ホームページ (<http://www.city.satte.lg.jp>)でも公表しています。

問合せ 環境課 ☎(48)0331・FAX(48)2226

## 令和2年度 第2回市民環境講座「秋の中川探検ウォーク」に参加して

報告： 坂本

令和2年11月11日（水）、第2回市民環境講座「秋の中川探検ウォーク」が開催されました。天気は晴天、北西の風があり、動いていれば寒さは感じないが、止まっていると少々寒さを感じました。



講師の説明を聴く参加者のみなさん

今回は第2回目の環境講座ですが、毎年行っている春の第1回市民環境講座「中川探検ウォーク」がコロナウイルス感染防止の観点から中止となったため、第2回市民環境講座が今年度初めての事業。講師は「NPO法人とよあしはら」の山本裕隆氏。参加者は、市民8人、環境課1人、さって市民環境ネット会員3人、総勢13人。この事業開催に当たり、コロナ感染者はこの事業からは出さないという方針のもとに、検温、手の消毒、マスク着用、3密を避ける対策が取られた。

一行は9時30分、東公民館を出発し、中川の土手を宇和田公園へと向かう。講師からは資料とし

て「虫の大切さ」、「蝶の生態」を頂いた。ただ秋も後半に入り、虫や蝶の数も少なく、実際講師からはさまざま雑学を教えて頂いた。

中川堤防の川側には、様々な木が植えてあったが、今回訪れてみると、榎（えのき）、桜、桑、シュロなどがすべて伐採されていた。講師によると、最近の集中豪雨で、大きな木が流され、橋などを壊すための予防策として伐採されたとのこと。



ヒマラヤ桜の前で記念写真

ここで講師からの問題が出された。堤内（ていがない）と堤外（ていがい）という言葉があるが、これは、堤の上に立ち、河川側と家のある側を表現する言葉。では堤内とは、河川側か、それとも家のある側か？ 参加者からは色々な意見が出る。講師からは、一見、堤内とは河川側に思えるが、人の住む側、洪水から守られている側であると説明。元々堤とは、洪水から人の住居や田畑を守るために作られたのだから、守られる側が堤内であるとのこと。

また講師から出題、河川の右岸と左岸はどのように決められるのか？ ある参加者が、川の上流側から下流側を見て、右側が右岸、左側が左岸と

発言。その通り、と講師の発言。そんな楽しい話をしながら遠足のような時を過ごして宇和田公園まで歩いた。

宇和田公園では、市民環境ネットの久保田会長からこの公園を設計した本多静六博士の母の実家の話や16世紀ごろ渡良瀬川が幸手の中心を北から南へ流れていたという歴史的な話を伺った。その後、2016年（平成28年）に植樹したヒマラヤ桜の前で記念写真を撮った。秋に開花するというが今年も開花には至っていない。来年を期待したい。

宇和田公園でお弁当を食べていると、トビよりも一回り小さな鳥、ノスリかも知れないタカの仲間の鳥が飛んできた。こんな鳥も幸手にいることを知らされた。のんびりと秋の一日を過ごし、東公民館にもどり幸手の自然を満喫した秋の中川探検ウォークであった。



草の上を歩くのは気持ちがいい！

**【会員募集中！】** 環境保全活動と一緒にやっていただく方を募集しております。是非、貴方も参加しませんか。〔さって市民環境ネット〕★問い合わせ先；久保田 修（代表）まで TEL 0480-42-1264

**幸手の環境活動グループ：** 幸手権現堂桜堤保存会、権現堂川地域環境保全協議会、幸手自然愛護会、幸手ひがし幼稚園、エコ・グリーン幸手、くらしの会、上高野婦人会、幸手中央ロータリークラブ、すこやか「食」の会、子育て支援ねっとわーく、いきがい・はなみずきの会（いきがい大学伊奈学園20期）